

## ■学校経営のポイント

### 教育改革・次期学習指導要領の先取り研修

小島 宏

学校現場は、間違いなく多忙になっている。このまま受け身・指示待ちを続けていると、肥大化が一層進み、本来の「子どもと向き合い、質の高い教育をする」ことから益々遠のいてしまいかねない。

そこで、これまでを振り返り、現在を見直し、近未来を展望して、教育改革や学習指導要領改訂などについて先取り研修を実施し、教師の「仕事の質と量及び仕方」について見直したい。

#### 子どもたちに身に付けたい資質・能力

これからの子どもたちが身に付けるべき資質・能力(個別の知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)について理解し、指導内容、指導計画、授業づくりの在り方と実際について具体的に検討する必要がある。その際、知識・技能の教え込みを超えた質の高い学力を目指したい。

#### 教育課程のPDCAの再構築

カリキュラム・マネジメントが強調されている。その際、ゼロからのスタートをやめ、従来の教育課程のPDCAサイクルの「どこをどう改善すればよいのか」と発想する取り組みが重要である。さらに、教育活動について学校が主体性を保ちつつ保護者・地域等と協力・連携して進められるよう「開かれた教育課程」についても研究していく必要がある。

#### ALなど指導方法の改善充実

ALがあたかも新しい指導方法のように論じられているが、冷静に受け止めて研修を進めたい。ポイントは、小・中学校は従来から取り組んでいるので、現状のALを洗い出し、子どもたちに身に付けさせたい資質・能力との関連で、それを整理し、一層改善・工夫していくことである。

#### 道徳科・英語科の実施

平成27年3月に道徳の教科化が決まった。各教科等における道徳教育と道徳科の授業の関係、検定

教科書の使用、考える・議論する学習、問題解決学習・体験学習、評価の在り方などについて研修が求められる。小学校外国語活動(小3・4)や英語科(小5・6)についても先取り研修が必要である。

#### 評価の考え方の見直し

まず、学校評価(自己評価、学校関係者評価、第三者評価)について、再確認したい。

次に、学習評価については、評価と評定、観点別学習状況の観点の趣旨、評価規準・評価基準などについて研修する必要がある。

その際、授業の中での評価(反応に応じた個別の支援)、テストなど数値による評価、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価、肯定的評価(長所や進歩を評価する)なども視野に置くようにする。

#### 教育課題への指導・対応

ESDの実践、プログラミング教育の導入、ユニバーサルデザイン(UD)による教育環境や授業づくり、いじめや不登校、情報モラル、子どもの貧困など教育課題が山積している。これらに対する指導や対応の在り方の研修も重要である。

#### 学校経営の総点検と研修

チーム学校としての学校運営と教育活動が求められている。学校を危機管理(生命、いじめ、教育の質、教職員の服務、人材育成、開かれた学校など)の視点から見直す必要がある。

人材育成の視点から発想すると、M区立A小学校の全員提案者の研修「月1回の定例校内研究会」は、その後半で、毎回3人が異なる先取りテーマを「資料A4一枚、5分提案、8分質疑応答、2分校長指導・講評」で進めるもので、チーム学校として自発性、主体性、協働性があり、参考になる。

(こじま・ひろし=元公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●これだけは知っておきたい教員としての最新知識! 大好評シリーズ最新刊

## 教育の最新事情がよくわかる本3

教育開発研究所[編] B6判・268頁/定価(本体 2,000円)+税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

